

みんなの科学

Science of People

*渡辺 政隆¹

*Masataka Watanabe¹

1. 同志社大学

1. Doshisha University

チャールズ・ダーウィンの『種の起源』（1859）は、専門書としてではなく、一般書として世に送り出された。仮にあれが専門書の体裁をとっていたとしたらどうだったか。時代は四半世紀近く遡るが、ガリレオ・ガリレイの『天文対話』（1632）は、通例を破り、ラテン語ではなくイタリア語で出版された。ガリレオは、異端審問にかけられる危険を犯してまで、科学を市民と共有したかったのだ。科学はかつて自然哲学と呼ばれていた。しかし科学研究が制度化されたことで科学者を意味するscientistという単語も造語され（1833）、職業化が進み、ある意味で血の通わない科学になってきた。現在、感染症を始めさまざまな分野で専門知の活用、共有の要望が高まっている。科学を「血の通ったもの」にするにはどうすればよいのか、考えたい。

キーワード：専門書、ダーウィン、ガリレオ、科学、科学者

Keywords: technical book, Darwin, Galileo, science, scientist